



校訓「進歩(文)」「健康(武)」「協力(道)」

# なりたい自分に 教育実習開始しました



〇〇〇〇先生



〇〇〇〇先生

5月15日(月)の朝、「教育実習開始式」を体育館で行いました。これから3週間、本校の2名の卒業生が教育実習を行うこととなります。

教育実習生は本校第45期生の〇〇〇〇先生(小菅野)と第47期生の〇〇〇〇先生(曲沢)です。〇〇先生は現在慶應義塾大学4年生で、担当教科は社会科、ホームルームは3Aとなります。〇〇先生は現在山形県立米沢女子短期大学2年生で、担当教科は国語、ホームルームは1Aとなります。教育実習生は奇しくも二人の「ユキ先生」です。子どもたちと年が近いこともあり、積極的に子どもたちと関わり合いながら、この3週間で沢山のことを学んでほしいと思います。

「教育実習」は大学・短大・教員養成機関で教育職員免許状の授与を受けるために修得する科目のことであり、その科目の内容として、取得しようとする免許状の校種に該当する学校で行われる実習のことを言います。

「教育実習生」は、実習期間中は教育活動のほぼすべての領域に参加することとなります。つまり担当教科だけでなく、道徳や特別活動の授業、給食や清掃の指導、さらに放課後は部活動などの指導にもあたります。このように「教育実習」は、学校で学んだ理論を教育現場の中で実際に体験する活動を通して、理論と実践を結び付け

ながら、教師として成長していくために重要な体験といえます。

実習期間中はすべて初めての体験の連続で、緊張感も加え大変な日々となることが予想されます。しかし、自分が中学校生活を過ごした母校で後輩たちと共に過ごす経験は、生涯忘れられない貴重な体験となることでしょうか。実習生の挨拶の中に「やはり由利中の挨拶は清々しいです。」という言葉がありました。壇上で久しぶりに聞いた母校の校歌も胸に来るものがあつたのではないのでしょうか。

また、2人の実習生の姿に、子どもたちは「将来の自分」や「未来の姿」を見ることができたと思います。これから3週間、2人の「ユキ先生」は「なりたい自分」をしっかりと目指して頑張ってもらいたいものです。

# 母校由利中での 教育実習にあたり

2人の「ユキ先生」からのメッセージを紹介します。

勉強や部活動を通じ、様々な経験をした中学校時代。先生方に向けられた言葉一つ一つに考えさせられ、自分と向き合うきっかけとなった経験が何度もありました。

教育実習にあたり、生徒の方々が私の言動や行動をどう受けとけるか想像し、意識した上で責任ある指導をさせていただきたいです。

そして、生徒の皆さんには特に、「失敗を恐れないこと」や「互いの個性を認めること」の大切さを伝えられたらと思います。これらは私自身、中学校時代に早く気がつけていたらと思うことです。

これまで3年間教育について学んできましたが、現場で初めて知る重要なことが多くあると考えます。先生方の授業を直接見せていただく中で、生徒との対話方法や授業の工夫を勉強したいと思います。そして、生徒の方々と楽しい時間を過ごしたいです。

(〇〇 〇〇)

私は平成24年度卒業の47期生です。現在は山形県立米沢女子短期大学に通っています。卒業から5年しかたっていないなかの母校での実習となり期待と不安で緊張しています。

久しぶりに入った中学校の校舎。どの教室にも3年間の思い出がたくさん詰まっていて、懐かしさで胸がいっぱいになります。特に、私は吹奏楽部に所属していたので、音楽室から聞こえる楽器の音には、何の練習をしているのだろうと熱心に耳を傾けてしまいます。

中学校在学当時を思い出しながらも、今回は実習生という立場でやってきました。長時間入ったことがなかった職員室という空間で、私の机をもらいぴしっと背筋が伸びる思いです。

先生方、職員の方、そして生徒の皆さんの助けを借り、教えを請いながら、この3週間の実習を有意義なものにしていきたいです。

(〇〇 〇〇)

## 自転車の運転には細心の注意を

新年度に入り、由利本荘市・にかほ市では児童生徒の交通事故が3件発生しています。中には救急車で搬送もあったそうです。また、ある事故では、坂道で自転車のブレーキが間に合わず大きな通りに飛び出してしまい、大型車両と接触して転倒した際、「顔面裂傷」と「歯が5本欠損」という大きな怪我につながった事案もあったそうです。

今日の朝、自転車の乗り方については「自転車は車両であり、運転する者には大きな責任があるのだから、きちんとルールに従って、歩行者と自分自身の命と安全を守りましょう。」「もし、何かあったら学校とお家の人に必ず報告するようにしましょう。」ということをお伝えしました。

ご家庭でもご指導をよろしくお願いします。